

氏名 藤 本 典 男

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 738 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和 51 年 3 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 「皮膚科領域におけるリンパ球幼若化現象知見補遺」

論 文 審 査 委 員 教授 大 藤 眞 教授 妹 尾 左 知 丸 教授 小 川 勝 士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

1. P H A 刺激による非特異的リンパ球幼若化現象は一般に 72 時間培養後判定されるが、この時間 P H A とリンパ球が接触する必要はなく、ずっと短時間、40 分でも、同じ程度の幼若化率が観察された。
2. 諸皮膚疾患における P H A 幼若化現象は癩 4 例をのぞいて、疾患として低値を示すものはみられず、正常値を示すもの、低値を示すものが混在していた。
3. P P D によるリンパ球幼若化現象は真正皮膚結核においては特に高値ではなく、顔面播種状粟粒性狼瘡を除く、結核疹群で、高い傾向がうかがえた。
4. P P D による幼若化細胞はマクロファージ型で、B C G による幼若化細胞は P H A 型であった。
5. ブドウ球菌抗原においても、crude な黄色ブ菌培養濾液による幼若化細胞は P H A 型で、Hollister 社黄色ブ菌ワクチンによる幼若化細胞はマクロファージ型であった。
6. トリコフィチンによるリンパ球幼若化現象が観察されたが、ケルズス禿瘡では高くないが、白癬性毛瘡では高い。浅在性白癬では低い、広範囲に生じたものでは高いという傾向がみられた。
7. ストレプトリジン 0、ストレプトキナーゼ、ドルナーゼ、Hollister 社溶連菌ワクチン群によるリンパ球幼若化が観察されたが、これらと血中 A S L O、A S K 値は無関係と思われた。
8. DNCB によるリンパ球幼若化現象は感作前は陰性、感作成立後は陽性であった。

DNCB（ハプテン）はキャリアとして必ずしも表皮蛋白を必要とせず，感作された血清蛋白と結合して，抗原性を得るものと考える。

9. 感作前の血漿と感作後のリンパ球の組み合わせでは幼若化現象は見られなかった。これは非感作の血清蛋白はキャリアとはなり得ず，DNCB が抗原性を得るに至らないためと思われる。

論文審査の結果の要旨

本研究は皮膚科領域におけるリンパ球幼若化現象に関し臨床的に研究したものであるが，従来十分確立されていなかったこの方面の知見に関し詳細な検討の結果重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。